

コーパスに基づいた類義語分析

——「見落とす」「見過ごす」「見逃す」を例に——

柴 宝華 趙 海城

1. はじめに

本稿は『筑波ウェブコーパス』ver.1.10をデータとし、オンライン検索ツールNINJAL-LWP for TWC(略称NLT)を利用して、コロケーション情報や文法パターンを基に、類義語「見落とす」「見過ごす」「見逃す」の異同点を論じるものである。

「見落とす」「見過ごす」「見逃す」は三者とも語彙的複合動詞で、他動詞である。『日本語教育語彙表』、日本語複合動詞オンライン辞典『複合動詞レキシコン』や多くの類義語辞典に類義表現同士として見出し項目に取り上げられている。以下では『日本語教育語彙表』、『岩波国語辞典』における記述を概観する。

表1『日本語教育語彙表 Ver 1.0』(2015)における記述

動詞	旧日本語能力試験出題基準レベル、難易度、重要度	語義と用例
見落とす	1級語彙 上級前半、★★★★ ¹⁾	①見ていながら気がつかないで、そのままにする。例：書類上の間違いを見落とす。
見過ごす	記載無(級外) 上級前半、★★★★	①見ていながらうっかりして気づかずにいる。見ていながらそのものの重要性などに気づかず、特に注意を払わないでやり過ごす。見落とす。 ②人の欠点や失敗などを見ていながらそのままにしておく。見逃す。
見逃す	1級語彙 上級前半、★★★★	①気がつかないでそのままにする。例：チャンスを見逃す。 ②良くないことと知っていながら注意を与えない。例：駐車違反を見逃す。 ③機会をのがす。例：話題の映画を見逃した。

●西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫(1985)『岩波国語辞典』(第三版)

見落とす

そこを見ながら、それに気づかずに漏らす。見すごす。

見過ごす

- ①見ながら、気が付かない。見おとす。
- ②見て知っていながら、特に問題にせず、そのままにする。

見逃す

- ①みおとす。

②気が付いていながら見ないふりをして、とがめないでおく。

上記のように、『日本語教育語彙表』の語義欄で「見過ごす」をそれぞれ「見落とす」「見逃す」を添えて説明しており、『岩波国語辞典』の意味記述でも、「見落とす」の項で「見過ごす」で解釈し、「見過ごす」と「見逃す」の項でいずれも「見落とす」で説明している。このような辞書の意味解釈だけでは三者の有意的な相違がはっきりしない。三動詞の異同点を明らかにするために、以下第2節ではまず、四つの類語辞典、参考書一冊における「見落とす」「見過ごす」「見逃す」の意味記述を概観する。

2. 先行研究

●類語研究会（1991）『正しい言葉づかいのための似た言葉使い分け辞典』

見落とす

見るべきことを、うっかり見ないでしまう、また、見ても気がつかないでしまう、の意である。例：「信号を見落としして事故を招く。」「注意書きを見落とす。」

見過ごす

意識して、見ることを避け、関係しない場合と、うっかり見落とす場合とがある。例：「老人が前にいたのを故意に見過ごす。」「話をしていたため名場面を見過ごしてしまう。」

見逃す

見るつもりでいながら、あるいは、見ているのに、うっかりして気がつかないで過ごしてしまう意と、悪いことをしている者を、気がついていても知らないふりをして、注意もしないでおく意とがある。例：「ストライクを見逃す。」「お情けで見逃す場合もある。」

	字の誤りを—	バントのサインを—	同僚の過失を—	絶好球を—
見落とす	○	○	—	—
見過ごす	○	—	○	—
見逃す	○	○	○	○

●松井英一（2008）『ちがいがわかる類語使い分け辞典』

基本の意味見えていながら気付かずいたり、問題にしないで済ませたりする。

見落とす

不注意から、見て認識すべきものや見付けて処理すべきものの存在に気付かずになってしまう意。他の二語はうっかりそうする場合にも、意識的にそうする場合にもいう。

見過ごす

何らかの対応・対処をすべき物事について、その存在に気付かずに過ぎてしまったり、その存在に気付いていながら何もしないで済ませたりする意。

見逃す

見ていながら認識すべきものや処理すべきものの存在に気付かずにしまう意、とがめるべき行為や捕らえるべき相手を見ないふりをしてそのままにする意、また、見る機会やとらえるべき好機を逸する意に使われ、三語の中では最も用法が広い。

表現例	見落とす	見過ごす	見逃す
A 標識を—たらしい	○	○	○
B うっかりして誤植を—	○	△	△
C 車内暴力を—		○	
D 今度ばかりは—てやる			○

1. Aのように認識すべき対象に気付かないでしまう意の場合、一般には三語とも使える。「見落とす」「見過ごす」では、もともと注意が不十分で気付かずにしまった感じだが、「見逃す」では、標識のことを意識に置いて注意を働かせていながらそれでも気付かずに過ぎてしまった感じになる。
2. Bは校正をしていて誤植を拾いもらしたという意に取れるが、この場合は「見落とす」が最も自然。「見過ごす」だと校正というより一読者として本の誤植に気付かず読み進んだという感じになり、「見逃す」も注意していながらという感じが出るため、いずれも「うっかりして」とそぐわなくなる。
3. 「見過ごす」「見逃す」とも、気付いていながら問題としないという意をもつが、「見過ごす」は受動的で、知らないふりをする感じが強く、「見逃す」は能動的で、あえてとがめない感じが強い。CとDにその違いが表れる。

●中村明 (2010) 『日本語 語感の辞典』

見落とす

見ておきながら気づかないでしまう意で、くだけた会話から硬い文章まで幅広く使われる日常生活の基本的な和語。例：〈看板を—〉〈集中力が足りずに誤りを—〉〈肝腎の問題点を—〉【例を中略】

「見過ごす」「見逃す」と比較し、似たようなものの中に異質なものが交っていることに気がつかないといったイメージが強い。「エックス線撮影でかすかな影を—」といえば、影の存在自体に気づかないという意味合いになる。

見過ごす

見たのに気づかない、気づいてもそのままほうっておく意で、会話でも文章でも広く使われる和語。〈目印の看板を—〉〈ほかのことに気を取られてうっかり—〉〈そこまでずれたら—わけには行かない〉「見落とす」意のほか、気がついても大目に見て問題にせずそのままやり過ごすという意味にも用いる。そのため、「エックス線撮影でかすかな影を—」というと、影の存在を認識できない意か、気がついても異状として取り上げない意か、それだけでは判断ができない。

見逃す

「見過ごす」に近い意味で、会話でも文章でも広く使われる日常生活の和語。〈絶好球を—してあえなく三振に倒れる〉〈近くの映画館で上映していたのに、気がつくのが遅くて残念ながら—してしまった〉〈不正行為を目撃しながら—〉【例を中略】
見ていながら気づかない意と、うっかりして見る機会を逸する意と、認識しながら黙認する意とがある。社会常識や場面の状況などから、「エックス線撮影でかすかな影を—」といえば第一の意味、「ゴッホ展を—」といえば第二の意味、「今度ばかりは

一してやる」といえば第三の意味と解釈することになる。

●小学館辞書編集部（2016）『使い方の分かる 類語例解辞典 新装版』

三者の共通する意味：見ながらそれに気がつかないでいる。

見落とす

（サ五）うっかりして誤字を見落としのまま出した。 注意書きを見落としした。

見過ごす

（サ五）道路標識を見過ごして道に迷う。 いわれない差別が行われているのを見過ごすことはできない。

見逃す

（サ五）盗塁のサインを見逃す。 今回だけは万引きを見逃してやる。 忙しくて以前から見たいと思っていた映画を見逃してしまった。

	道路標識を一	わかっていながら一	好機を一	コンマを一
見落とす	○	-	-	○
見過ごす	○	○	-	-
見逃す	○	○	○	-

【使い分け】

【1】「見落とす」は、見るのだが気がつかないことをいう。

【2】「見過ごす」は、見て何らかの処置が必要な物事に対して、処置をとらずにそのままにする意でも使われる。

【3】「見逃す」は、見ても気がつかないのほかに、見てもとがめない、知っていながら見ずに終わる、などの意味で使われる。

以上で幾つかの類義語辞典における記述を見てきた。大まかにまとめると、「見ていながら気付かないでしまう」意味は三動詞に共通しており、「見過ごす」「見逃す」は見て気づくが、「見過ごす」はいけないことをそのまま知らないふりをして関知しない、「見逃す」も見て気づくが、いけないことをあえてとがめないで逃す意味を持ち、「見逃す」はさらにチャンス、好機を逃してしまう意味を持つと言えよう。

●長嶋善郎（1981）「ミオトス・ミスゴス・ミノガス」柴田武他（編）『ことばの意味3－辞書に書いてないこと』

上に概観した類語辞典の意味記述と違って、長嶋（1981）はページを割けて、行為の意図性の有無、主体の態度や対象の特徴といった複数の視点から三動詞の異同点を考察している。次に長嶋（1981）を概観する。

三者の共通点

いずれも「視覚による認知」が問題で、三者の共通前提は「対象が主体の視野の範囲内にあること」と「予期があること」であり、また三者に共通する特徴は「認知」または「働きかけ」の欠如があるとしている。

「見落とす」は「非意図的行為」についてしか用いられないが、「見逃す」「見過ごす」

は「意図的行為」についても用いられる。

『非意図的行為』の場合

「見落とす」は対象が移動している場合には使えない、また、対象は同類のものからなる集合体の一要素で、主体は対象の「存在に気が付かない」ことを表す。それに対し、「見過ごす」は主体または対象が物理的に移動していなければならない、主体は「対象が特別の条件に合っていることに気が付かない」ことを表す。一方、「見逃す」は、主体が「積極的に対象をとらえようとしている」前提と、何らかの事情でそれを「捉え(られ)ない」というニュアンスがあり、その対象も「動いていく」という特徴が考えられる。

『意図的行為』を表す場合

「見逃す」と「見過ごす」には、対象が「とがめられるべき行為」であるという共通する特徴がある。違うところは、「見逃す」は主体がその行為を思うがままに「裁量しうる立場にある」ことが必要であるが、「見過ごす」にはそのような制約はない。また、「見過ごす」は主体の「無関心な態度」を暗示するのに対し、「見逃す」は主体の「積極的態度」を意味する。

「見過ごす」は「見逃す」と違って、「命令・依頼」の形では使えないし、「してやる」という結びつきがないという制限がある。

長嶋(1981)は主体の態度や対象の性質・特徴から三者の異同点を示したが、主体の態度やニュアンスの違いは一体どのような違いで、その違いは文法的振る舞いにも顕在的に現れるのか、現れる場合どのような様相を呈するのかはいま一つはっきりしない。また、上で取り上げたいいくつかの類語辞典の記述からも分かるように、レンマレベルの記述が中心で、個々の動詞の出現形による記述、出現形の使用傾向に関する明示的な記述が見られない。こういった動詞は実際に使用されるのは、レンマのレベルではなく出現形である。したがって、レンマに集約させた記述ではなく、具体的な語とのコロケーションといった可視化された言語情報を手掛かりに、各動詞の出現形ごとのそれぞれの使用傾向、使用実態を丁寧に記述する必要がある(小林(ほか),2016:67,69)。日本語教育で求められるのは、作例や抽象的な意味記述ではなく、それぞれの類義表現がどのような語とともに使われるのかを調べ、頻繁に用いられるコロケーションやコリゲーションのパターンを明らかにすることである(小林(ほか),2016:83)。このような可視化された言語情報を抽出するには、多くの用例が集められたコーパスが威力を発揮する。

そこで、本稿では類義語「見落とす」「見過ごす」「見逃す」を分析対象にし、コーパスデータを基に、コロケーションや文法パターンなどの可視化された言語情報を手掛かりに、実証的に三者の異同点を論じていく。

3. 検索ツールとコーパスデータ、統計値

3.1 検索ツールとコーパスデータ

本稿は、オンライン検索ツール『NINJAL-LWP for TWC』(略称 NLT) ver.1.30 を利用している。検索ツール NLT は、筑波ウェブコーパス (略称 TWC) を検索するために、国立国語研究所と Lago 言語研究所が共同開発したコーパス検索システムである。この検索システムは NINJAL-LWP (NINJAL-LagoWordProfiler) を利用しており、レキシカルプロファイリングという手法を用いて、筑波ウェブコーパス (TWC) のデータにアノテーションを付与した上で解析している。アノテーションに使用している解析器・辞書は、形態素解析 MeCab 0.98 + IPA 辞書 2.7.0 で、係り受け解析器は CaboCha 0.60 である。形態素解析用の IPA 辞書は、代表表記の情報を含まないため、独自に拡張して代表表記に対応させている。

筑波ウェブコーパス (TWC) を解析した結果、総語数は 1,137,819,665 語となっている。なお、検索ツール NLT は、名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを網羅的に表示することができ、さらに共起頻度だけでなく共起関係の強さに関する統計的な数値の MI スコア (MI)、ログダイス (LD) も表示される。

本稿で利用する筑波ウェブコーパス (TWC) は、一般の日本人 (外国人によって書かれたものもわずかながら含まれるはず) が書いた多様な日本語が収集されているため、中には間違った使い方も見られるが、本稿のように、使用頻度の高い用例に絞って考察することにより、間違った使い方の影響が限定的であると言えよう。

3.2 コロケーション強度を示す統計値

MI スコア (mutual information score) (相互情報量)

ある語が共起相手の語の情報をどの程度持っているかを示す指標である。その語が出れば、共起相手は自動的に決まる、というような場合に相互情報量が高くなる。概念的には 2 語の頻度の実測値と期待値の比を対数に誘導したものである。

$$I = \log_2 \frac{\text{共起頻度} \times \text{コーパス総語数}}{\text{中心語頻度} \times \text{共起語頻度}}$$

MI スコアは、頻度は低い特殊な結びつきをしているコロケーションがうまく検索できるとされる。ただし、MI スコアの特性として、低頻度のコロケーションが過度に強調されるため、一般的に MI スコア ≥ 3 が顕著の傾向と言える。

$$LD = 14 + \log_2 \frac{2 \times \text{共起頻度}}{\text{当該文法パターン中心語頻度} \times \text{共起語頻度}}$$

ログダイス (logDice 係数) (LD と表記)

語と語の結びつきの強さを表すダイス係数を対数化したもので、コロケーション統計では最もバランスのとれた指標の一つである。NLT において、ログダイス (LD)

は以下の数式で求める。(赤瀬川(他)2016:p.26、p.70)

LDの最大値は14で、通常は10以下になる。LDの値が高いほど、語と語の結びつきが強い。また、降順に並べるとMIスコアより単純頻度に近い結果が得られるとされる。

3.2節でコロケーション強度を示す統計値MIスコア、ログダイス(LD)の意味するところを示した。本稿では出現頻度に加え、統計値の中でも、最もバランスのとれた指標の一つとされるログダイス(LD)を中心に差を見る。第4節ではNLTの「2語比較」機能を使って、TWCにおいて三動詞はいくつかの文法的環境において、どの程度現れるかを見ていく。

4. 分析と考察

4.1 全体的な傾向

まず、NLTで検索してヒットした「見落とす」「見過ごす」「見逃す」の用例数と「名詞+を見落とす／見過ごす／見逃す」の例数は表2に示す。

表2「見落とす、見過ごす、見逃す」の用例数と「名詞+を動詞」の例数、割合

動詞	用例数 ²⁾	名詞+を動詞	例数	名詞+を動詞の割合
見落とす	5773	名詞+を見落とす	1723	29.8%
見過ごす	3239	名詞+を見過ごす	848	26.2%
見逃す	8801	名詞+を見逃す	4165	47.3%

表2に示されているように、筑波ウェブコーパス(TWC)における三動詞の用例数に大きな開きがあり、「見逃す」が一番多く、意味用法が少ないと言われる「見落とす」が5773例で二番目に多い。「名詞+を動詞」の割合を見ると、「見逃す」の全用例の47.3%が「名詞+を見逃す」の形で使われていることが分かる。

次に「見落とす」「見過ごす」「見逃す」の各活用形の使用割合、後続する助動詞の使用割合を示す。

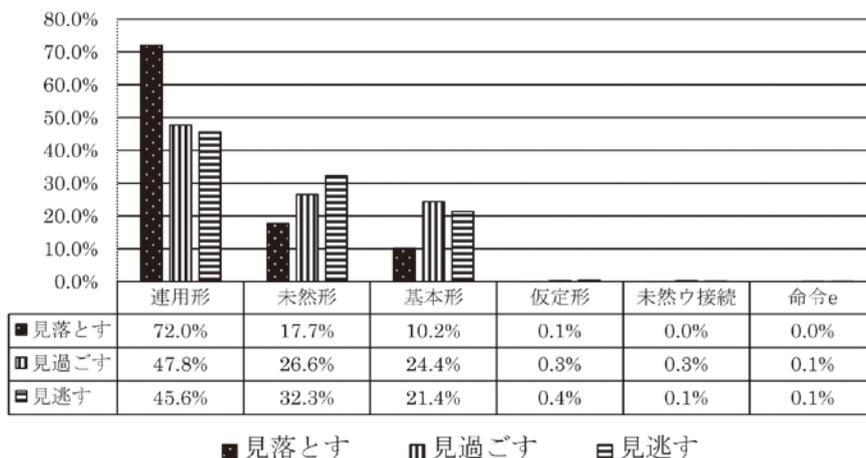


図1 三動詞の活用形の割合

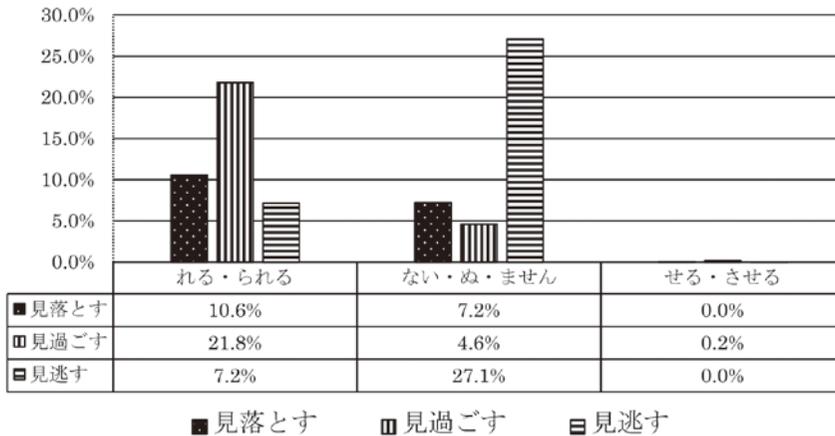


図2 三動詞の後続助動詞の割合

図1は「見落とす」「見過ごす」「見逃す」の各活用形の使用割合を示し、図2は「見落とす」「見過ごす」「見逃す」の後続する助動詞の割合を示したものである。図1から「見落とす」はほかの2者に比べ、連用形の使用割合が72%と高く、未然形、基本形の使用割合が相対的に低いことが分かる。一方、「見逃す」は未然形が高く、「見過ごす」は基本形の使用割合がやや高いことが分かる。図2から「見過ごす」には「れる・られる」(受動がほとんど)の使用割合が21.8%と高く、「見逃す」には「ない、ぬ、ません」といった否定形が高いことが読み取れる。類義語同士であるが、三動詞は活用形と後続助動詞の使用実態においてそれぞれ偏りが見られる、以下の分析では、これらの違いが意味するところも含めて見ていく。

以下4.2節～4.4節において、この三動詞と共に起る「を」格名詞の異同点、特徴的な文法パターンを見ていく。4.2節では「見落とす」と「見過ごす」を、4.3節「見落とす」と「見逃す」を、4.4節では「見過ごす」と「見逃す」を、2語ずつ比較していく。なお、各表において、「を」格名詞をログダイスの降順で並べている。

4.2 「見落とす」と「見過ごす」

4.2.1 見落とすのみと共に起る「を」格名詞

表3 「見落とす」のみ(40種類、頻度2以上³⁾、「見過ごす」とのLD差2以上)

見落とす	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見過ごす	頻度	MIスコア	ログダイス↓
標識をー	19	9.94	5.42	段差をー	2	7.81	3.11
テンスをー	2	13.08	5.13	マーカーをー	2	7.80	3.10
病変をー	9	9.78	5.12	ニュアンスをー	2	7.57	2.92
赤信号をー	3	10.78	5.11	肺瘤をー	2	7.51	2.87
大局をー	3	10.06	4.78	通路をー	3	7.38	2.86
定石をー	2	10.23	4.54	文言をー	2	7.50	2.86
予兆をー	2	10.04	4.46	高値をー	2	7.46	2.83
シグナルをー	5	9.11	4.41	所見をー	2	7.41	2.78
さざ波をー	2	9.73	4.32	訴えをー	2	7.39	2.77

本質を一	21	8.39	3.99	封筒を一	2	7.36	2.74
大前提を一	3	8.70	3.92	交差点を一	4	7.19	2.72
漁船を一	3	8.55	3.81	漏れを一	2	7.22	2.63
テープを一	8	8.15	3.69	断層を一	2	7.16	2.58
語句を一	2	8.37	3.52	弱点を一	2	7.07	2.50
公告を一	2	8.36	3.51	マークを一	5	6.76	2.35
核心を一	2	8.26	3.44	知見を一	2	6.88	2.34
手掛かりを一	3	7.97	3.35	描写を一	2	6.81	2.28
合図を一	2	8.09	3.32	丸を一	8	6.61	2.23
船を一	30	7.61	3.25	意義を一	5	6.59	2.19
目印を一	2	7.89	3.17	書きを一	2	6.64	2.13

「見落とす」だけと共起する「を」格名詞には、「標識、病変、赤信号、テープ、船（漁船）」などのように、視覚により捉えられるものが多く現れている。一方、「本質、大局、シグナル、核心、ニュアンス、意義」のような名詞は、先行研究で指摘されている「視覚による認知」を必ずしも必要とするのではなく、頭で理解し、整理してはじめて気づくものである。使用文脈を見ると、前文脈では認知しやすいものがあり、それに気を取られてしまい、抽象的な高次元のものに気付かないという意味を「見落とす」で表している。

- (1) 科学的合理主義を自称する者の多くが、現象として現れていることばかりを問題にして、本質を見落としている。(家族の変遷 我々の抱いている家族像は最近のものである。)
- (2) しかし目に見える小さなことに心を奪われると大局を見落として心に迷いや疑いを生じてしまいます。(剣道二刀流「はくどー庵」[書斎／剣道の身法編〈1〉])
- (3) ところが、経済学者の多くは、連続生産の事実を見て、生産過程で機能するのは資本の一部であるということを忘れてしまい、貨幣資本の存在の意義を見落とす。(『資本論』第2巻第15章第1節)

4.2.2 見過ごすのみと共起する「を」格名詞

表4 「見過ごす」のみ(16種類、頻度2以上、「見落とす」とのLD差2以上)

見過ごす	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見過ごす	頻度	MIスコア	ログダイス↓
ボークを一	3	14.48	6.58	虐殺を一	2	8.78	3.24
苦境を一	2	10.46	4.57	差異を一	3	8.60	3.13
その道を一	2	9.84	4.11	不正を一	5	8.13	2.73
ハラスメントを一	2	9.83	4.11	いじめを一	3	7.84	2.41
不履行を一	2	9.70	4.01	チャンスを一	6	7.68	2.30
過ちを一	3	9.48	3.92	苦しみを一	3	7.70	2.28
理不尽を一	2	8.89	3.34	(非常・緊急)事態を一	7	7.50	2.12
悪を一	2	8.87	3.31	想定を一	2	7.52	2.09

「見過ごす」だけと共起する「を」格名詞には「ハラスメント、不履行、過ち、理不尽、悪、虐殺、不正、いじめ」などが見られ、これらの名詞はマイナスな事態、とがめられるべき行為を表している。例(4)はハラスメントを放っておかないことを、例(5)は過ちを見て見ぬふりをして対処しない意味を表している。

- (4) ハラスメントを見過ごさない勇気を持ちましょう。(ハラスメント防止・対策に関するガイドライン | 法政大学)
- (5) これが我々の犯す小さな過ちを見過ごさせて居心地良くしているのかも知れません。(台湾が大好きな人の書いた台湾案内)

「見過ごす」だけと共起する「を」格名詞にはまた、「チャンス、差異、ポーク、その道」などがあり、「見過ごす」はこれらの名詞が示される対象に気づかないことを表す。例(6)はチャンスを逃さないでつかむことを、例(7)は差異に気づかなかったことを表している。

- (6) 自分のしたいことを強くもって、こうした変化に対応できる柔軟性と忍耐をもち、自分をとりまく流れの中で、チャンスを見過ごさずに決断することです。(〔東京大学〔総長室から〕式辞・告辞集])
- (7) 国際比較調査では質問項目を各国の言語に適切に翻訳することが重要な手続きであるが、各国内の事情の差異を見過ごしたための誤訳が見受けられる。(環太平洋価値観国際比較調査)

4.2.3 「見落とす」と「見過ごす」両方と共起する「を」格名詞

表5 両方(7種類、頻度2以上、「見落とす」と「見過ごす」のLD差2以上)

見落とす	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見過ごす	頻度	MIスコア	ログダイス	LD差
サインを一	29	10.08	5.62	サインを一	4	8.25	2.82	2.80
道しるべを一	8	9.99	5.24	道しるべを一	1	8.01	2.44	2.80
分岐を一	10	8.90	4.40	分岐を一	1	6.60	1.16	3.24
側面を一	15	8.21	3.81	側面を一	2	6.33	0.93	2.88
看板を一	11	8.11	3.69	看板を一	1	5.68	0.28	3.41
信号を一	13	7.95	3.54	信号を一	3	6.85	1.46	2.08
発症を一	5	7.82	3.32	発症を一	1	6.52	1.08	2.24

「見落とす」と「見過ごす」両方と共起する「を」格名詞には、「道標、分岐、看板、信号」などがあり、これらの名詞により表される事物はいずれも視覚により認知可能なものである。一方、「サイン」は例(8)のような物理的に存在し、目で確認できる意味のほか、例(9)のように、視覚による認知とは限らない場合もある。例えば痛みというサインなら視覚により認知されるものではない。また、「側面」は物理的空間の面の意味ではなく、連体修飾節により限定され、いろいろな性質・特徴があるうちのひとつという意味で使われる場合、視覚により認知されるものとは言い切れない。例(9)～(11)

から分かるように、「見落とす」と「見過ごす」両方とも視覚に限らず、身体で感知し、頭で理解すべきことをうっかり気づかずに逃してしまう、あるいは逃すわけにはいかない文脈で使われている。

- (8) 一部の場所には5分とか15分の時間限定スペースや身障者スペースがありますので、サインを見落とさないようにしましょう。(ハワイの駐車場と駐車方法／ハワイ レンタカードライブガイド)
- (9) このサインを見過ごすと恐ろしい病気になりますよ。(骨の病気・整形外科：本当は怖い家庭の医学によせて)
- (10) わたしたちは、兎角に思想の論理的な側面ばかり評価して実践的側面を見落としがちです。(【禅の入門禅滴】- 愛知学院大学 禅研究所 -)
- (11) このことは評価すべきことですが、同時に「医療行為」故の看護師配置という側面を見過ごすわけには行きません。(在宅ケア支援懇談会意見書(医療的ケア)・バクバクの会)

また、これらの名詞は両動詞とも共起してはいるが、表5のMIスコアとLD値を見ると、これらの名詞は「見落とす」と共起する強度が高いことが分かる。

4.2.4 両動詞の特徴的な文法パターン

表6 両動詞の文法パターンの出現比率の差が±5%以上のもの

見落とす (5773例)			見過ごす (3239例)		
パターン	頻度	比率 ⁴⁾	パターン	頻度	比率
見落とし+名詞	738	12.8%	見過ごし+名詞	136	4.2%
見落とされる	610	10.6%	見過ごされる	706	21.8%
見落とす+名詞	433	7.5%	見過ごす+名詞	665	20.50%

「見落とし+名詞」の738例中、633例は傾向を表す「見落としがち」の形である。見過ごすは「見過ごされ～」の形が706例で、総用例数の21.8%を占める。「見過ごされてしま～、見過ごされてきた」がそれぞれ66例、81例と多く見られた。一方、見落とすは「見落とされ～」の形が610例で、総用例数の10.6%を占めるにとどまっており、「見落とされてしま～、見落とされてきた」がそれぞれ47例、15例にとどまっている。

また、「見落とす+名詞」433例中、「見落とす+可能性、危険、恐れ、心配」が66例で、可能性を表す名詞が後続するという特徴がある。それに対し、「見過ごす+名詞」665例中、「見過ごすことは(できない、ない)、見過ごすわけには(いかない)」などのパターンが522例である。

よって、「見落とす」は認知対象の性質に注目し、往々にしてその認知対象の存在に気付かないというコトの傾向性、可能性を一般的に記述しているのに対し、「見過ごす」はすでに起こったコトに対して対処しなかったことを記述し、それによる後ろめたさ、無念さ、追及する意志というニュアンスが伴うか、見落とすわけにはいかな

いという主観的な意思を表す文脈で多用されることが分かる。

4.3 「見落とす」と「見逃す」

4.3.1 見落とすのみと共起する「を」格名詞

表7 「見落とす」のみ(22種類、頻度2以上、「見逃す」とのLD差-2以上)

見落とす	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見落とす	頻度	MIスコア	ログダイス↓
テンスを—	2	13.08	5.13	段差を—	2	7.81	3.11
赤信号を—	3	10.78	5.11	ニュアンスを—	2	7.57	2.92
定石を—	2	10.23	4.54	文言を—	2	7.50	2.86
さざ波を—	2	9.73	4.32	高値を—	2	7.46	2.83
大前提を—	3	8.70	3.92	封筒を—	2	7.36	2.74
漁船を—	3	8.55	3.81	交差点を—	4	7.19	2.72
語句を—	2	8.37	3.52	知見を—	2	6.88	2.34
核心を—	2	8.26	3.44	描写を—	2	6.81	2.28
手掛かりを—	3	7.97	3.35	丸を—	8	6.61	2.23
発症を—	5	7.82	3.32	意義を—	5	6.59	2.19
船を—	30	7.61	3.25	書きを—	2	6.64	2.13

「見落とす」だけと共起する「を」格名詞には、「テンス、赤信号、定石、船(漁船)、語句、段差、発症、交差点」などの名詞が見られ、これらの名詞は視覚により認知できるもので、「見落とす」はこれらの名詞が表す対象をうっかり見なかったか、見ても気づかなかったことを表す。長嶋(1981)は非意図的行為を表す場合、「見落とす」は「対象が移動している場合には使えない」としているが、例(12)のように、(判決文という特殊なジャンルではあるが)対象が移動している場合でも、見落とすが使える。

- (12) 受審人は、駿河湾北部において、漂泊して魚釣りをする場合、接近する他船を見落とさないよう、周囲の見張りを十分に行うべき注意義務があった。
(横浜地方海難審判所裁決21yh019)

一方、「核心、ニュアンス、知見、意義」などは脳裏で理解、整理してはじめて気づくものである。先行研究で指摘されているような「視覚による認知」を必ずしも必要としない。

- (13) 社交的なニュアンスを見落とす。(注意欠陥・多動性障害)
(14) しかし、この例を引き合いにただけでは複数解の大事な存在意義を見落とすとしてしまいます。(複数解(?)の積極利用)

4.3.2 見逃すのみと共起する「を」格名詞

表8 「見逃す」のみ(18種類、頻度10⁵以上、「見落とす」とのLD差2以上)

見逃す	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見逃す	頻度	MIスコア	ログダイス↓
前兆を—	22	11.18	6.74	表情を—	17	6.86	3.66
チャンスを—	134	9.87	6.66	出会いを—	16	6.72	3.52
牌を—	13	8.51	4.94	放送を—	22	6.63	3.48
瞬間を—	49	7.94	4.77	犯罪を—	16	6.37	3.21
タイミングを—	29	7.66	4.46	ドラマを—	11	6.31	3.10
不正を—	14	7.32	4.03	シーンを—	12	6.06	2.88
機会を—	62	7.10	4.00	反応を—	15	5.90	2.76
違反を—	16	6.98	3.76	成長を—	18	5.38	2.28
番組を—	29	6.82	3.68	行為を—	22	5.09	2.00

「見逃す」だけと共起する「を」格名詞には、大まかに言えば、3種類に分けられる。一つは「前兆、(麻雀)牌、瞬間、反応」などで、「見逃す」は動作主体が対象を見ているながら気づかない意味を表し、文中では見逃さないという否定形で使われることが多い(例(15))。もう一つは「チャンス、機会、タイミング、番組、放送、出会い」などで、これらの名詞によって表されるものを利用する好機を逃してしまう、あるいは逃さないといった文脈で使われる(例(16))。三つ目は「不正、違反、犯罪、(違法、反則)行為」などの名詞で、とがめるべき行為やそれをして捉えるべき人を(わざと)逃す意味を表し、「見逃せば、見逃したら」のような条件表現として、また「見逃してきた、見逃しておいた、見逃してもらう、見逃してくれ」といったアスペクト表現、授受補助動詞を伴って使用されるのが特徴的である(例(17)、(18))。ただし、種類一と種類二は厳格に線引きすることは難しいようである。

- (15) 脳梗塞の前兆を見逃さない。(健康診断の結果でとても心配な事(コレステロール)- 質問・相談なら MSN 相談箱)
- (16) このタイミングを周瑜は見逃さなかった。(レッドクリフ(赤壁の戦い)のあらすじ)
- (17) 被告発人は、総合通信基盤局局長という地位を利用し、KDDIの違法行為を見逃し隠蔽した。(KDDIを告発しました。天下りとは、贈収賄事件とは、元総務省職員どうなる。)
- (18)「余裕がないからと、これまで小さな犯罪を見逃してきた。(読売新聞特集「治安再生-揺らく警察組織」)

4.3.3 「見落とす」と「見逃す」両方と共起する「を」格名詞

表9 両方(6種類、頻度2以上、「見逃す」と「見落とす」のLD差2以上)

見逃す	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見落とす	頻度	MIスコア	ログダイス	LD差
サインを—	185	11.48	8.12	サインを—	29	10.08	5.62	2.50
兆候を—	42	11.03	7.16	兆候を—	4	8.91	4.19	2.97
変化を—	133	7.80	4.71	変化を—	17	6.11	1.76	2.95

ミスを一	21	7.71	4.45	ミスを一	4	6.59	2.17	2.28
一瞬を一	16	7.40	4.12	一瞬を一	2	5.67	1.25	2.87
症状を一	40	6.20	3.10	症状を一	7	4.96	0.61	2.49

「見落とす」と「見逃す」両方と共起する「を」格名詞には、「サイン、兆候、変化、ミス、症状」などが見られる。これらの名詞により表される対象は視覚により認知され、脳内での経験知識と照らし合わせて理解するものである。それを逃さない（ように努力する）、あるいは逃してしまうという意味の文脈でよく使われる。

両動詞とも共起してはいるが、MIスコアとLD値を見ると、これらの名詞は「見逃す」と共起する強度が高いことが分かる。これは「見落とす」に比べ、「見逃す」のほうは主体が積極的に対象をとらえようとする意味を前提として内包していることによるのであろう。実際、例(20)、(22)の「見落とす」を「見逃す」に置き換えても自然であり、むしろ置き換えた方がいいように感じられるが、例(19)、(21)の「見逃す」を「見落とす」に置き換えると、やや不自然で、否定形により表出される主体が積極的に対処しようとする態度が伝わらない。

- (19) 暴力の兆候を見逃さない。(米軍基地を視察)
- (20) そのために必要な検査を定期的におこなっていく必要があり、実地医家としては、合併症の兆候を見落とさないことが重要です。(糖尿病)
- (21) 早産のサインを見逃さないで。(妊娠中の風邪)
- (22) 植物のサインを見落とさず、効果的に追肥を行います。(園芸の肥料(追肥))

4.3.4 両動詞の特徴的な文法パターン

表 10 両動詞の文法パターンの出現比率の差が±5%以上のもの

見逃す (8801例)			見落とす (5773例)		
パターン	頻度	比率	パターン	頻度	比率
…を見逃す	4,167	47.3%	…を見落とす	1,723	29.8%
見逃す⇨動詞	2,631	29.9%	見落とす⇨動詞	1,438	24.9%
見逃さない	1,648	18.7%	見落とさない	354	6.1%
見逃さぬ	554	6.3%	見落とさぬ	56	1.0%
見逃す+名詞	1,353	15.4%	見落とす+名詞	433	7.5%
見逃している[ある]	663	7.5%	見落としている[ある]	907	15.7%
見逃し+名詞	114	1.3%	見落とし+名詞	738	12.8%

まず、「見逃す⇨動詞」と「見落とす⇨動詞」を見ると、「見逃すわけにはいかない」類は112例に対し、「見落とすわけにはいかない」類は12例にとどまっている。また、「見逃すことはできない」類は352例、「見逃すことになる」類は46例に対し、「見落とすことはできない」類、「見落とすことになる」類はいずれも0例である。さらに、「見逃さずに褒める」、「見逃さずに対応する」「見逃さないように努める」「見逃してくれる」はそれぞれ10例前後見られるが、「見落とす」には見られない。一方、「見落とす

⇨動詞」は「見落として（進む、進行する、横断する）」「見落としていないか確認する」といった類のものがそれぞれ5例～10例ぐらい使われている。それに対し、「見逃す」にはこの類の使用例は見られなかった。

次に、「見逃さない（で、ように、ください、でほしい、ようにする）」類は全用例の18.7%を占めるのに対し、「見落とさない（で、ように、ために、ください）」類は全用例の6.1%に留まっている。また、「見逃さぬ」は「見逃さずに+意思的な対応動作」が多いのに対し、「見落とさぬ」の形は1.0%にすぎない。

「見逃す+名詞」と「見落とす+名詞」を見ると、「見逃す手（はない、47例）、見逃すこと（はできない、734例）、見逃すわけ（にはいかない、144例）、見逃すはず（はない、95）」であるのに対し、「見落とす+名詞」はそれぞれ0例、0例、17例、2例にすぎない。

「見落としている[ある]」の形は全用例の15.7%を占めるのに対し、見逃している[ある]は7.5%に留まっている。また、4.2.4節でも触れたように、「見落とし+名詞」は633例が傾向を表す「見落としがち」の形で使われている。

以上の文法パターンの出現傾向から、「見逃す」はモダリティ表現を多く後続させ、主体の意志、積極的な態度、実質的な対応を表す文脈で使われるのに対し、「見落とす」は気づかなかつた事実を述べる文、往々にして気づかないという傾向を表す文脈で多く使われることが分かる。こういった使用傾向に関しては「見落とす」は意図的行為を表せないのに対し、「見逃す」は意図的行為、非意図的行為の両方を表せることによるものである。

4.4 「見過ごす」と「見逃す」

4.4.1 「見過ごす」のみと共起する「を」格名詞

表11 「見過ごす」のみ（10種類、頻度2以上、「見逃す」とのLD差2以上）

見過ごす	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見逃す	頻度	MIスコア	ログダイス↓
ボークを—	3	14.48	6.58	理不尽を—	2	8.89	3.34
苦境を—	2	10.46	4.57	悪を—	2	8.87	3.31
その道を—	2	9.84	4.11	虐殺を—	2	8.78	3.24
ハラスメントを—	2	9.83	4.11	誤りを—	3	7.95	2.52
不履行を—	2	9.70	4.01	想定を—	2	7.52	2.09

「見過ごす」だけと共起する「を」格名詞は頻度が低いが、「苦境、ハラスメント、不履行、理不尽、悪、虐殺、誤り」などが見られる。これらの名詞はマイナスな事態、とがめられるべき行為を表している。こういう事態について、見てみぬ振りをする（ことはできない）文脈で使われている。例(23)はハラスメントを放っておかないことを、例(24)は大虐殺を見てみぬふりをして、関知しなかったことを表している。

- (23) ハラスメントを見過ごさない勇気を持ちましょう。(ハラスメント防止・対策に関するガイドライン | 法政大学)

(24) その結果、まともな介入がなされずに、80万人～100万人の大虐殺を見過ごす結果になりました。(ホテル・ルワンダ)

「見過ごす」だけと共起する「を」格名詞には「ボーク」が見られた。例(25)は「ボーク」にうっかり気づかない意味で使われている。

(25) 私はどちらかといえばボークを見過ごすタイプです。(審判員の本音(11))

4.4.2 「見逃す」のみと共起する「を」格名詞

表12 「見逃す」のみ(21種類、頻度10⁶以上、「見過ごす」とのLD差2以上)

見逃す	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見逃す	頻度	MIスコア	ログダイス↓
前兆を—	22	11.18	6.74	番組を—	29	6.82	3.68
シグナルを—	17	9.61	5.78	表情を—	17	6.86	3.66
隙を—	27	8.25	4.96	出会いを—	16	6.72	3.52
牌を—	13	8.51	4.94	放送を—	22	6.63	3.48
瞬間を—	49	7.94	4.77	ドラマを—	11	6.31	3.10
変化を—	133	7.80	4.71	疾患を—	16	6.16	3.01
標識を—	12	8.00	4.53	シーンを—	12	6.06	2.88
タイミングを—	29	7.66	4.46	反応を—	15	5.90	2.76
一瞬を—	16	7.40	4.12	癌を—	14	5.53	2.40
機会を—	62	7.10	4.00	成長を—	18	5.38	2.28
本質を—	19	6.97	3.77				

「見逃す」だけと共起する「を」格名詞には、大まかに言えば、2種類に分けられる。一つは「前兆、シグナル、標識、変化、表情、本質、反応、一瞬、瞬間、隙、タイミング、機会」などで、これらの名詞により表される事象は変化の過程に潜んでおり、注意を向けて観察することにより捉えられるものが多い。「見逃す」は動作主体が対象を見ているが気づかない意味を表し、文中では見逃さないという否定形で使われることが多い(例(26)、(27))。もう一つは「(麻雀)牌、番組、放送、出会い」などの名詞で、これらの名詞によって表されるものを利用する好機を逃してしまう意味の文脈で使われている(例(28)、(29))。ただし、この2種類の名詞はボーダーがなく、どちらの意味を表すか厳格に分けられない場合がある。

(26) 病気の前兆を見逃したら大変と気を張って過ごす毎日。(福祉ネットワーク)

(27) 子どもの変化を見逃さない。(防犯チェックポイント：警視庁)

(28) 見たい番組を見逃さないために！(スーパー！ドラマTV：声優名鑑)

(29) この体型のせいで、いくつも出会いを見逃しました。(ガリガリモデルダイエット)

4.4.3 「見過ごす」と「見逃す」両方と共起する「を」格名詞

表13 両方(15種類、頻度2以上、「見過ごす」と「見逃す」のLD差2以上)

見過ごす	頻度	MIスコア	ログダイス↓	見逃す	頻度	MIスコア	ログダイス	LD差
異変を一	1	8.56	2.90	異変を一	8	9.26	5.09	-2.19
兆しを一	1	8.49	2.84	兆しを一	7	9.00	4.86	-2.02
サインを一	4	8.25	2.82	サインを一	185	11.48	8.12	-5.30
兆候を一	1	7.94	2.37	兆候を一	42	11.03	7.16	-4.79
チャンスを一	6	7.68	2.30	チャンスを一	134	9.87	6.66	-4.36
ミスを一	2	6.62	1.22	ミスを一	21	7.71	4.45	-3.23
分岐を一	1	6.60	1.16	分岐を一	9	7.48	4.04	-2.88
矛盾を一	1	6.23	0.80	矛盾を一	7	6.74	3.38	-2.58
ヒントを一	1	6.19	0.77	ヒントを一	6	6.47	3.12	-2.35
症状を一	7	5.98	0.61	症状を一	40	6.20	3.10	-2.49
発見を一	2	5.85	0.47	発見を一	9	5.73	2.54	-2.07
異常を一	3	5.82	0.44	異常を一	19	6.18	3.04	-2.60
動きを一	4	5.68	0.31	動きを一	20	5.70	2.59	-2.28
看板を一	1	5.68	0.28	看板を一	9	6.55	3.28	-3.00
点を一	16	5.60	0.24	点を一	68	5.39	2.31	-2.07

「見過ごす」と「見逃す」両方と共起する「を」格名詞には、「サイン、チャンス、症状、異常、ミス、動き」などが見られ、これらの名詞により表される事象は変化の過程に現れ、注意を向けて感知することにより捉えられるものが多い。また、「心筋梗塞のサイン」のように、これらの事象は必ずしも「視覚による認知」を必要としない。また、両動詞とも共起してはいるが、表13のMIスコアとLD値を見ると、これらの名詞は「見逃す」と共起する強度が高いことが分かる。これはこれらの変化過程にある事象は逃さないよう注意深く察することを必要とし、それが「主体が積極的に対象をとらえようとしている」意味を前提としている内包する「見逃す」によりマッチするためであろう。

- (30) 心筋梗塞のサインを見逃さないで！(心筋梗塞の正しい理解。見逃すな！心筋梗塞のサイン)
- (31) 子どもへの虐待のサインを見過ごさないでください。(「妻が電話に出ない」)
- (32) このチャンスを見過ごさないでください。(留学成功のカギ | 海外への留学 | 関西大学国際部)
- (33) チャンスを見逃すな！(高速バス・夜行バス 京都-東京 夜行バス 格安！近割サービスのご紹介)

4.4.4 両動詞の特徴的な文法パターン

表14 両動詞の文法パターンの出現比率の差が±5%以上のもの

見過ごす (3239例)			見逃す (8801例)		
パターン	頻度	比率	パターン	頻度	比率
…を見過ごす	848	26.2%	…を見逃す	4,167	47.3%
見過ごして+動詞	914	28.2%	見逃して+動詞	1,959	22.3%

見過ごさない	107	3.3%	見逃さない	1,648	18.7%
見過ごさぬ	39	1.2%	見逃さぬ	554	6.3%
見過ごされる	706	21.8%	見逃される	630	7.2%

まず、「見逃して+動詞」は「見逃してくれる(105例)」「見逃してあげる(やる)(65例)」「見逃してもらう(52)」のように、恩恵の授受を表す授受補助動詞との共起が特徴的である。それに対し、「見過ごしてくれる」は4例にとどまり、他の授受補助動詞とは共起していない。「見過ごして+動詞」は「見過ごしている(ある)」「見過ごしてくる」「見過ごしてしまう」のようなアスペクト表現がより多く使われているが、使用比率は「見逃す」より5%ほど高くない。

次に、「見逃さない(で、ように、てください、でほしい、ようにする)」類は全用例の18.7%を占めるのに対し、「見過ごさない(で、ように、ために、てください)」類は全用例の3.1%に留まっている。また、「見逃さぬ」は「見逃さずに+意思的な対応動作」が多いのに対し、「見逃さぬ」の形は1.2%にすぎない。

見過ごすは「見過ごされ～」の形が706例で、総用例数の21.8%を占める。「見過ごされてしま～、見過ごされてきた」がそれぞれ66例、81例と多く見られた。

4.5 特徴的な文法的振る舞い

文中における三動詞の特徴的な振る舞いを大まかにまとめると以下ようになる。
見落とす:見落としがち、見落としている(ある)、見落とす+(可能性、危険、恐れ、心配)

見過ごす:見過ごされる、見過ごすことができない、見過ごすわけにはいかない、見過ごしてしまう

見逃す:見逃さない(で、ように、てください、でほしい、ようにする)、見逃さずに+意思的な対応動作、見逃さない(ぬ・ません)、見逃して(くれる、くださる、あげる、やる、もらう、もらえる)

このような特徴的な文法的振る舞いの違いは前掲の図1、図2の違いとして現れている。

5. まとめ

「を」格名詞は視覚による認知のもの以外に、人間の思考、分析によってはじめて気付く類のものも少なくない。

- ①見落とすは淡々と事実を述べていることが多い。対象が必ずしも「視覚による認知」を必要としない。またわずかでありながら、対象が移動しているものでも使用可能である。
- ②見過ごすと見逃すには主観的な決心、注意を示す文脈が多い。見過ごすは客観的条件によるもの、見逃すは主観的意志を述べていることが多い。
- ③見逃すには主体が積極的に対象をとらえようとする意味を内包しており、主体の意志、積極的な態度、実質的な対応を示す文脈で使われやすい。また、恩恵の授

受を示す補助動詞が接続し、恩恵的授受関係を示すことが多い。

本稿は大まかな傾向を示したが、個々の用例を仔細にチェック、分析していく必要がある。また、三動詞は前項動詞と後項動詞でどれだけ本動詞の意味を保持し、または本来の意味が希薄化になっているかを含めてそれぞれの意味を考察する必要がある。今後の課題とする。

注

- 1) 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」での使用頻度を統計的に処理し、5段階で表現している。★の数が多いほど、よく使われていることを表す。三動詞とも★4つということは比較的よく使われていることを意味する。http://jreadability.net/jev/q_and_a
- 2) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の用例数を調べたところ、「見落とす」は433例、「見過ごす」は359例、「見逃す」は1440例だった。用例数の開きの傾向はウェブコーパスという特性に由来するものではないと言えよう。
- 3) 比較する二語のどちらかのコロケーションの頻度が2以上という意味である。したがって、片方が頻度2以下の場合もある。
- 4) パターン別の比率は総用例数における割合である。つまり、見落とすは5773例、見過ごすは3239例、見逃すは8801例にそれぞれ占める割合を意味する。
- 5) 出現頻度2以上だと、「見逃す」のみで92種類の名詞が使われている。そこで、分析する際に扱いやすい点から、出現頻度10以上に絞って抽出した。
- 6) 出現頻度2以上だと、「見逃す」のみで101種類の名詞が使われている。そこで、分析する際に扱いやすい点から、出現頻度10以上に絞った。

参考文献

- 赤瀬川史朗・ブラザント・バルデシ・今井新悟 (2016) 『日本語コーパス活用入門 :NINJAL-LWP 実践ガイド』大修館書店
- 金田一京助 (他) (編) (1997) 『新明解国語辞典』第五版 三省堂
- 国立国語研究所 (2013) 『複合動詞レキシコン』<http://vvlxicon.ninjal.ac.jp/db/> (2016年9月5日参照)
- 小林ミナ (他) (2016) 「類義表現分析の可能性」砂川有里子 (編) (2016) 『コーパスと日本語教育 (講座 日本語コーパス)』所収 pp.65-106 朝倉書店
- 柴田武・山田進 (編) (2002) 『類語大辞典』講談社
- 小学館辞書編集部 (2016) 『使い方の分かる 類語例解辞典 新装版』小学館
- 杉本武 (2009) 「コーパスからみた類義語動詞:『ねじる』と『ひねる』」『文芸言語研究 言語篇』筑波大学文藝・言語学系 pp.109-122
- 砂川有里子 (2014) 「コーパスを活用した日本語教師のための類似表現調査法」『日本語/日本語教育研究』5, pp.7-27 ココ出版
- 趙聖花・劉玉琴 (2014) 「コーパスに基づいたコロケーション分析:「素敵」「立派」「素晴らしい」を例に」『徳島大学国際センター紀要・年報』pp.24-30 徳島大学
- 田忠魁・泉原省二・金相順 (編) (1998) 『類義語使い分け辞典』研究社
- 長嶋善郎 (1981) 「ミオトス・ミスゴス・ミノガス」柴田武他 (編) 『ことばの意味3-辞書に書いてないこと』pp.58-65 平凡社
- 中村明 (2010) 『日本語 語感の辞典』岩波書店
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫 (1985) 『岩波国語辞典』第三版 岩波書店
- 日本語学習辞書支援グループ (2015) 『日本語教育語彙表 Ver 1.0』<http://jisho.jpn.org/> (2016年9月5日参照)
- 姫野昌子 (監修) (2012) 『日本語コロケーション辞典』研究社

藤原与一・磯貝英夫・室山敏昭 (2009) 『表現類語辞典 新装版』東京堂出版
松井英一 (編) (2008) 『ちがいがわかる類語使い分け辞典』小学館
類語研究会 (編) (1991) 『正しい言葉づかいのための似た言葉使い分け辞典』創拓社出版

★本稿は、筑波大学、国立国語研究所、Lago 言語研究所により開発された『NINJAL-LWP for TWC』(略称 NLT) を利用した。(http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/)